

活動名	団体名	日本ダウン症協会広島支部えんぜる ふいつしゅ
	地域	広島県広島市
ソーシャルスキルアップ支援事業～カカオチーム の接客マナー研修とスピーチ活動～	代表者	広島支部えんぜるふいつしゅ会長 日野 扶美子
	支援金額	25万円
活動概要	<p>ダウン症青少年が、社会人として豊かな人生を送るために、社会性、「人付き合いのコツ」をつける支援活動を目的に活動しました。そのために(1)継続的な活動として、コーヒーの練習活動、カフェ活動を通して地域の人々に接客し、言葉で交流し、理解を深めました。(2)更に相応しい接客、言葉での交流、相応しい自己表現を学ぶためにスピーチの原稿作りから始め、練習活動を続け、自信をつけるために発表活動をしました。(3)このような活動に係るのは学生ボランティアで、共に学びを深めました。社会人、学生、本人が夫々の立場で、可能な支援を出して、地域連帯することができました。その連帯した状態を可視化するために、更なる啓発活動をするために、スピーチ大会をしました。</p> <p>◆実施時期 (1)カフェ活動は青少年センター、アンデルセン、大学祭(県立広島大学、広島大学) (2)スピーチ活動 青少年センター (3)スピーチ大会 西区区民文化センター</p> <p>◆参加人数 カフェ活動 ダウン症本人 約100名、 カフェ来客者 約500名以上 スピーチ活動 約100名 スピーチ大会 スピーカー12名 観客 約190名</p> <p style="text-align: right;">参加総人員:890名</p>	



スピーチ大会出場者、岩元氏、石井アナウンサーとスピーチ大会が終わって、みんなで記念写真



横断幕を背に後ろに座っている10人のスピーカーとスピーチするダウン症本人の一人。ステージの様子。



招待スピーカー、岩元綾さんの講演会。
スピーカー、会場の聴衆の前で自分がダウン症と知って、落ち込んでいた時から、自分の使命に目覚めさせた海外での活動のこと、出生前診断についてのダウン症本人の考え、思いを語りました。



スピーチの練習の段階で、学生の前で発表する機会をもって、スピーチすることがどういうことか、体験させ、聴衆へアピールするためにどうするか、考える機会を作った。

◆実施に伴う効果

日本ダウン症協会広島支部えんぜるふいっしゅにとって、世界ダウン症の日記念大会として、全体で取り組み、連帯が図れた。各大学、福祉施設、公共施設へ招待の枠を広げ、実際に10人以上の招待客が図れたあり、ダウン症への理解を深め、更なる支援を受けることができる方向性ができた。新聞にイベント紹介で掲載されたため、一般参加者もあった。今後も続けて欲しいと言う意見があった。同じような活動が、障がいのある若者にだけでなく、普通の若者にも必要であると言う感想があった。本人たちは、自信を得たためか、日常での会話がスムーズになった者もいる。

◆苦労した点

マツダ財団からの支援金のおかげで、長年希望していた岩元氏の講演が実現できたが、スピーチ大会として、会場の使用可能な時間が限られて、本人のスピーカーが9人になり、ボランティアの発表も2人になった。予定では保護者のスピーチも入れたかったが、希望者がなかった。

スピーチ大会の会場確保には苦労した。最初の段階で、えんぜるふいっしゅの役員会の中での協力が難しかったが、進むうちに連携がとれるようになり、気持ちが一つになれた。

地域の理解については、少しずつ広がっているように思うが、あくまでも草の根の運動だと思う。時間をかけて理解を深めてもらうようにしたい。

◆今後の課題・発展の方向性

スピーチ活動に取り組むダウン症の本人は増える可能性があり、経験者は更に自信を強くし、コミュニケーションの力をつけ、自分の思いを伝えて社会の中で、生きる力をつけたい。更に可能なら、社会の矛盾や、現在自分たちが置かれている立場について学びの場を設定し、啓発活動ができる人に育ててほしい。この力は地域の学生ボランティアと共に学び合う中で育つと考えている。

本人、ボランティアの成長と同じく、保護者も共に社会に目を向けて、学びながら、人としての強さと自信をもって生きる力をつけるために、スピーチ活動に参加してほしい。

特に英語でのスピーチに取り組むことで、国際的な視野を持ち、世界に目を向け、世界のダウン症のある人と情報交換などが可能になる。また、学生ボランティアにも国際的な視野を育ててほしい。

◆活動を終えての感想・意見等

始めた時は、特に保護者の中には、我が子はスピーチができるとは思えなかったものがいた。しかし、保護者のいない場所では、子供たちは、気持ち、思いを語り、原稿ができた。それを聞いて先ず驚いたのが保護者であった。更に練習している間に我が子への見方が変わり、我が子への希望を抱けた保護者もいた。最後練習でリハーサルをやった頃から、彼らの成長している姿が見え、「やって良かった！」と保護者は思った。マツダ財団の支援金をいただいたお蔭で、長年の希望であった岩元綾氏の講演が実現でき、彼女は本人、保護者、支援者に刺激を与えた。